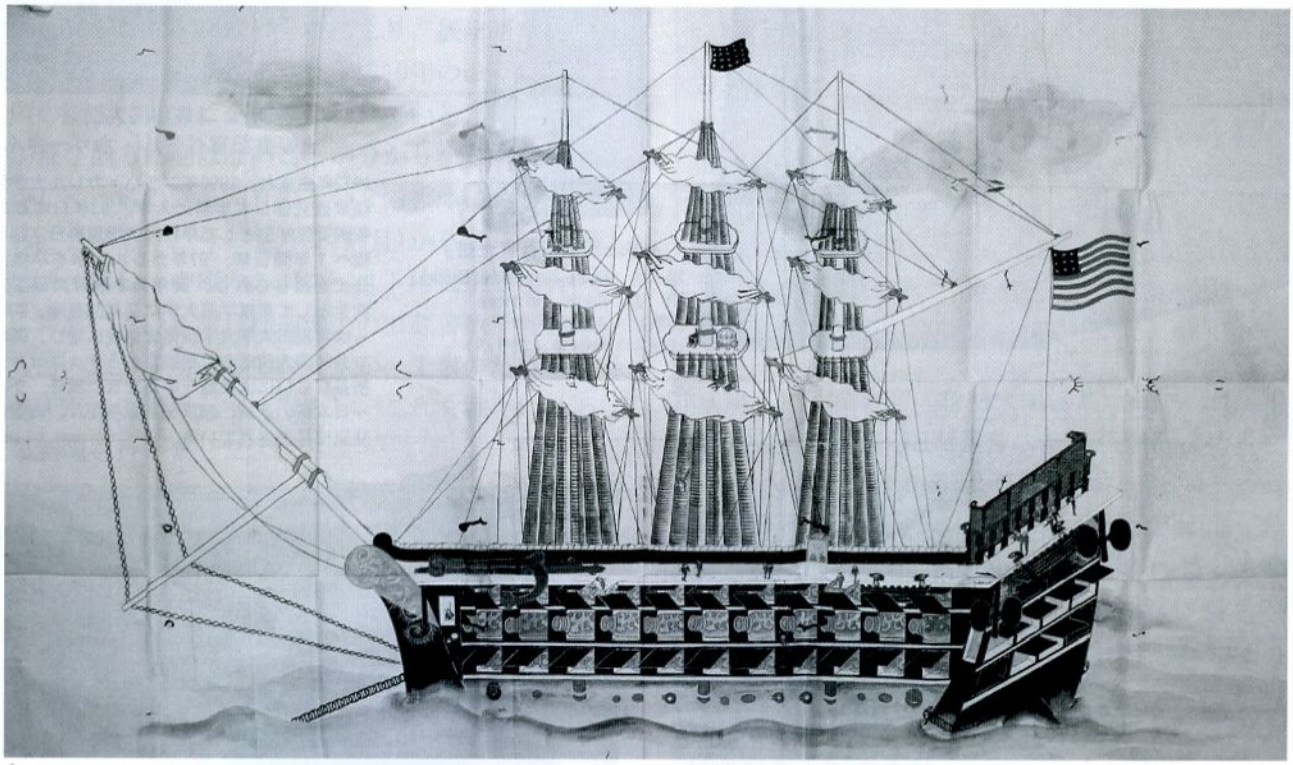
十和田市立　新渡戸記念館だより

収蔵資料紹介

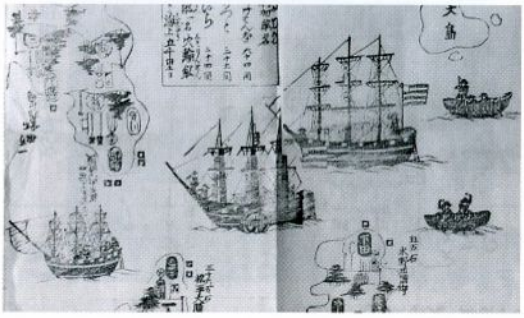
資料名：アメリカ船図
年　代：江戸時代末



縦八六・九×横一四六・八（㎝）

ペリー艦隊の帆船の図

当館所蔵のこの絵図面は、アメリカ合衆国東インド艦隊司令長官ペリー提督が率いる艦隊の、帆船を描いたものと考えられます。ペリーはアメリカ大統領フィルモアの「開国」を求める親書を携えて嘉永６年（1853）浦賀に来航し、翌安政元年横浜に再来航して、日米和親条約を締結しました。嘉永６年には蒸気船２隻（サスケハナ、ミシシッピ）、帆船２隻（プリマス、サラトガ）の合計４隻で、翌年は蒸気船３隻（サスケハナ、ポーハタン、ミシシッピ）、帆船６隻（マセドニアン、サラトガ、サザンプトン、レキシントン、バンデリーア、サプライ）の合計９隻の大艦隊で来航しています。絵図面に描かれているのは帆船ですが、アメリカ艦隊のどの帆船を描いたものか等は分かっていません。

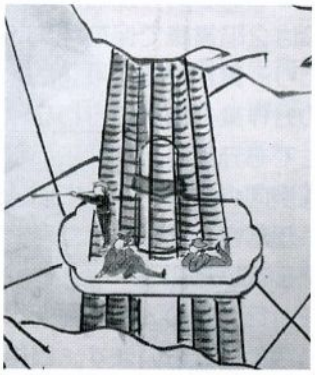


◀『蛮舶雑録』（当館蔵）収録の瓦版より。安政元年再来航したペリー艦隊の様子。蒸気船１隻、帆船２隻を描いている

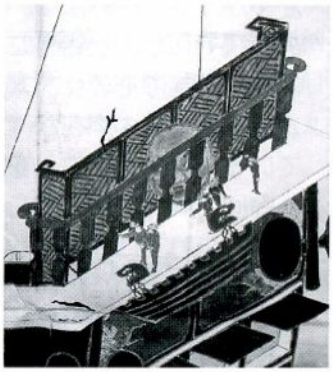
臨場感あふれる描写

絵図面は帆を畳んで錨を下ろし、停泊する帆船の様子を描いており、船の左舷には縦に３列、各11門、合計33門の大砲が見えます。また、甲板やマストには西洋風の帽子をかぶり銃を背負った船員たちが細かく描きこまれ臨場感にあふれています。

他にも、新渡戸家蔵書にはペリー来航の詳細を伝える記録や、外国船に関する資料、外交文書の写し等が多く含まれ、こうした海外に目を向ける新渡戸家の気風が、国際人・新渡戸稲造を育んだのかもしれません。



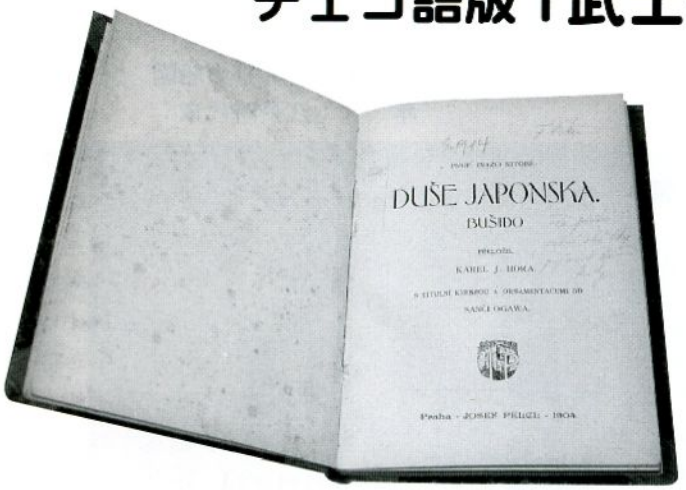
◀「アメリカ船図」部分。マストの上にはくつろいで寝そべる姿も見える

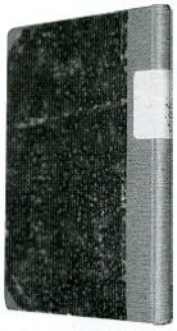


船尾に大入道の顔が描かれていたり、細部の描写は想像で補っている▶

チェコ共和国大使館一等書記官ペトル・ホリーさんが

チェコ語版「武士道」を寄贈





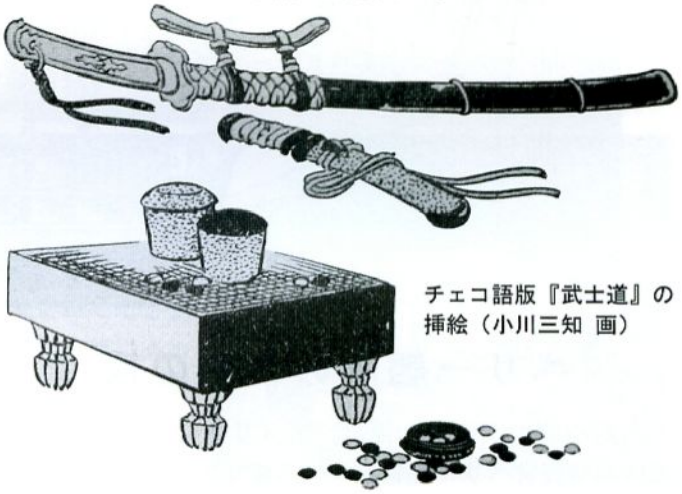
▲チェコ語版『武士道』
題　名：Duše Japonska. Bušido
訳　者：Karel Jan Hora
出版社：Josef Pelcl
出版年：1904年（プラハ）

チェコ共和国大使館
一等書記官ペトル・ホリーさん

1972年生まれ。1990年プラハ・カレル大学哲学部極東研究部日本学科に入学、'93年日本政府文部省国費留学生として早稲田大学別科日本語専修課程へ１年間留学、'97年カレル大学を卒業、哲学修士を授与される。'98年日本政府文部省国費研究生として東京学芸大学に２年間留学、2000年からは早稲田大学大学院博士過程に学び、'06年チェコ共和国大使館内に新設されるチェコセンターの所長ならびに大使館一等書記官に就任。チェコ語－日本語の通訳、翻訳を多数手がけ、両国の文化交流に尽力されている

今年１月、チェコ共和国大使館一等書記官ペトル・ホリーさんから新渡戸稲造の著書『BUSHIDO－the soul of Japan－』のチェコ語版『Duše Japonska. Bušido』（日本の魂　武士道／1904年プラハにて出版）１冊を寄贈いただきました。

このたびの寄贈は、昨年11月、当館館長代理がチェコ共和国大使館ホールで開催されたチェコ音楽コンクールのピアノ部門で審査員を務めたご縁から実現しました。コンクールの折、館長代理と新渡戸稲造の著書『BUSHIDO』について話されたペトルさんは、『BUSHIDO』はチェコ語にも翻訳されているので、ぜひ当館にチェコ語版を寄贈したいと言われ、わざわざチェコ本国の古書店を通じてこの書籍を入手され、寄贈下さいました。



チェコ語版『武士道』の挿絵（小川三知 画）

博物館実習生レポート

―10日間の実習を終えて―

実施期間：平成19年２月19日（月）～３月２日（金）

帝京大学文学部史学科４年生　作　田　修　穂
（県立野辺地高校出身）

私が実習先として十和田市立新渡戸記念館を選んだ理由は、以前見学した際に新渡戸稲造博士の国際間のかけ橋となる活躍に興味や魅力を感じたからです。

今回の私の実習では、ちょうど記念館の臨時休館の期間と重なり、通常では体験できないような内容の実習をすることができました。普段は２階書庫で保存されている資料が、書庫工事のため１階展示室の床一面に並べられていて、収蔵番号をつけたり、資料のほこりを払ったり、２階書庫に搬入したりなど、直接資料に触れる機会が多かったと思います。その分作業も慎重に行わなければならず、緊張の連続でした。と同時に、とても充実した実習になったと思います。館内の作業だけでなく、太素塚境内の清掃を行っている時には、ご近所の方々から挨拶の声をかけていただき、実習生ながら、私も記念館で働いている一員であることを実感しました。

◀実習中の作田さん

今回の実習で学んだことを、この先の人生でも活かすことができるように、忘れずに大切にしていきたいと思います。最後になりましたが、10日間ご指導いただいた記念館の職員の方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

当館２階書庫内アスベスト除去工事完了
工事期間中に書籍の虫干し・目録整備を実施

十和田市で実施したアスベスト（石綿）使用状況調査で、当館の天井の吹きつけ剤からアスベストが検出されていましたが、詳しい成分分析により、展示室内の含有量は基準値以下であり、さらに平成10年の改装工事で展示室内の壁面、天井は全て塗装されているため、アスベストが飛び散る心配はないことが分かりました。

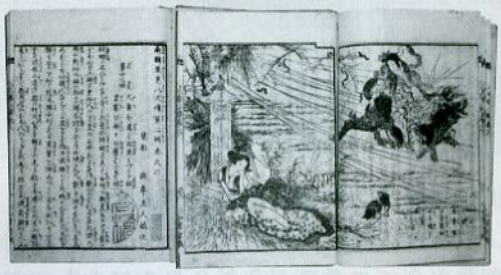
しかし、一般の立ち入りのない２階書庫については除去する必要があり、今年１月22日（月）から２月28日（水）まで臨時休館し、書庫内のアスベスト除去工事を行いました。書庫には、新渡戸稲造博士の旧蔵書数千冊を含む約１万冊の蔵書を所蔵していますが、工事のため書庫内の資料を全て１階展示室へ搬出し、これを機会に虫干しと目録整備を行いました。

◀工事にともない書庫から1階展示室に搬出された資料群

書庫の一隅から

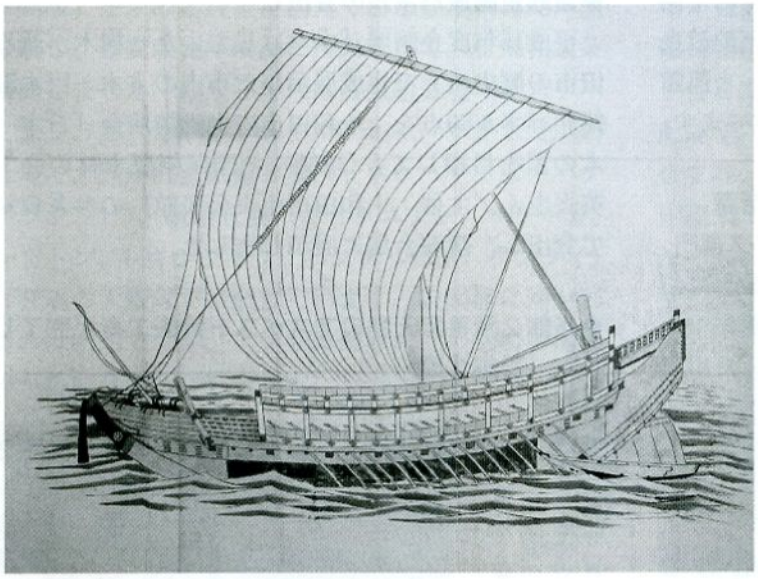
新渡戸稲造の思い出を秘めた『南総里見八犬傳』

当館所蔵の書籍はさまざまな物語を秘めています。その中の一冊『南総里見八犬傳』（滝沢馬琴 著）は、新渡戸稲造が父親の十次郎に読んでもらった思い出の本です。「後になって先生（新渡戸稲造）は父親の存世した幼少の頃を追想して次の如く述べておられる。“父は毎夜炉辺で家族一同と盛岡名産の饅頭を食いながら、読書していたことをおぼろげながら記憶している。母は傍らに針仕事をしながら座し、兄や姉どもも皆謹聴していた。僕も分からぬながら饅頭の分与にあずからんと、仲間入りをして居った。父は一同に八犬傳を読んで聞かせた。…”」（石井満 著『新渡戸稲造傳』より）十次郎は稲造が５歳の時に亡くなりました。当館に残る『八犬傳』には、稲造が覚えている数少ない父の思い出が秘められています。



◀当館所蔵『南総里見八犬傳』から。見開きには新渡戸稲造の蔵書印がある

修復完了資料より



縦四二・四×横六一・〇（㎝）

資料名：和船図
年　代：江戸時代末

平成17年度事業として軸装しました。

船の舳先には南部家の家紋の一つ「九曜」があり、南部盛岡藩の藩船の一つと考えられます。嘉永３年（1850）江戸で御小姓御納戸を務めていた新渡戸十次郎は盛岡藩の軍船「虎丸」の造営に携っており、当館には虎丸を描いた図面も所蔵しています。

5月18日は国際博物館の日

映画【ナイト ミュージアム】
〈３月17日（土）全国ロードショー〉
割引券を当館で配布中!!

関　連　情　報

◆太素塚清掃奉仕

平成18年9月21日（木）大学通り老成会 様

ありがとうございました

◆創価学会・池田大作名誉会長の小説5000回連載に対する館長代理の祝賀メッセージ聖教新聞へ掲載

聖教新聞に連載している創価学会池田大作名誉会長の小説『人間革命』『新・人間革命』が平成19年１月15日で連載5000回を数え、それに対する館長代理の祝賀メッセージが、同日付け聖教新聞に掲載されました。メッセージ掲載後、池田名誉会長から館長代理へ「御好意をもっていただき、最大に感謝申し上げます。御厚情は、生涯、忘れません。くれぐれも、よろしくお伝えください」と新聞社を通じてコメントをいただきました。

◆国営相坂川左岸農業水利事業所看板降納式開催

昨年10月、国営相坂川左岸農業水利事業完工式が開催され、国営事業の全ての業務が今年３月末日をもって完了します。この事業完了にともない、国営相坂川左岸農業水利事業所も閉所することとなり、３月16日（金）に事業所の看板降納式が稲生川土地改良区１階ロビーにて開催されます。また、式典の後、相坂川左岸地区土地改良事業推進協議会の主催で開催される慰労会では、当館館長が長年の国営事業完了に対し、慰労の言葉を述べます。

◆館長代理が音楽学博士・音楽評論家としても活躍

昨年のチェコ音楽コンクール（11月20日）ピアノ部門、スロバキア音楽コンクール（12月２日）声楽部門において館長代理が審査員を務めました。また現在編集中の『ルーマニアを知るための60章』（明石書店より３月出版予定）にルーマニアのクラシック音楽の章を担当して執筆しています。

◆モラロジー研究所・廣池幹堂（もとたか）理事長が著書『玲瓏（れいろう）のこころ』で当館を紹介

今月財団法人モラロジー研究所から発行された『玲瓏のこころ～歴史に学ぶ叡智～』（モラロジー研究所理事長・廣池幹堂廣池学園学長　著）で当館が紹介されました。この書籍は同研究所の月刊誌『れいろう』の巻頭に廣池理事長が執筆している随想をまとめたもので、廣池理事長は平成10年10月に当館を訪問した時の印象を平成11年１月号に紹介していました。同研究所並びに学園は、新渡戸稲造と親交のあった道徳教育家、廣池千九郎氏の教育理念を受け継いだ教育機関であり、廣池理事長は千九郎氏の曾孫にあたります。

活　動　報　告

◆元朝参り

平成18年12月31日（日）午後11時から平成19年１月１日（月）午前１時30分まで、太素塚への元朝参り参拝者にお神酒、甘酒の無料サービスを実施しました。暖冬のため深夜にもかかわらず比較的暖かく、多くの参拝客が訪れ、太素塚で新年を迎えました。

なお、さい銭箱に貴重な浄財金をいただきました。誠にありがとうございました。

◆当館企画展パネルの貸出し

平成15年度企画展「木々は見ていた～樹木が語る十和田市の歴史～」で作成展示した市内の古木・巨木51件の紹介パネル80点を、十和田市寿大学講演会「日本一の巨木の里を目指して」（講師：全国巨樹巨木林の会・高渕英夫さん／主催：十和田市中央公民館）の参考資料として貸出し、講演会場に展示しました。

◆当館２階書庫天井のアスベスト除去工事が完了しました（詳細３面）

◆平成18年度第２期博物館実習生受け入れ（詳細２面）

〈編 集 後 記〉

暖冬とはいうものの私にとっては大変でした。慣れない雪かきで手足を痛めたり、繰り返し風邪を引いたりと何とも情けない。そんな中、境内でふと目に映った福寿草は一陽来復にして改めて生命の息吹を感じずにはいられませんでした。何よりも健康が一番ですね。　　（館長代理 新渡戸常憲）

発　行　太　素　顕　彰　会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
TEL（FAX）0176-23-4430
E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印　刷　株式会社 岩 間 印 刷